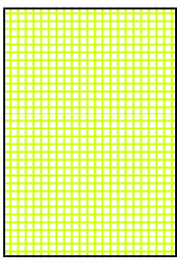




中学生にこの一冊!

今年の春はなかなか暖かくなりませんが、積もった雪は着々と解けてきていますね。そろそろ外に出て、体を動かしたい人もいますでしょうか? 6月の体育大会・運動会を先取りして、今回はスポーツ関連の本を紹介します。

◆「ラスト・イニング」あさのあつこ/著



あさのあつこさんといえば、ピッチャー巧の成長を描く「バッテリー」を知っている人は多いのではないのでしょうか? こちらはその後日談になります。

野球の強豪・横手二中を卒業した門脇と瑞垣。卒業しても新田東中の巧・豪との試合を忘れることができず、進路にまで影響を及ぼしてしまう…。それぞれが悩みながらも、自分の進む道をしっかりと決めていく姿は頼もしくて、今後を応援したくなります。

◆「SPORTSシューズのひみつ」新星出版社編集部/編

スポーツによって、その競技に合わせた専用の靴があります。しかし、実際どこが違うのでしょうか?

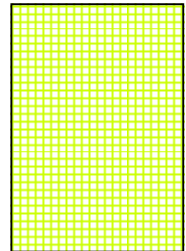
「野球シューズはつま先を補強するパーツがある」「ハンマー投げのシューズと卓球のシューズは特徴が同じ」「バレーのトゥシューズは左右が同じ形」など、その競技をやっていないとわからないひみつから「昔のスケート靴は下駄だった」という靴の歴史まで盛りだくさん。選手を陰で支える職人三村さんのインタビューを読むと、自分にあった靴が欲しくなること間違いなし!

湧学館司書 向出 絵梨香(むこうで・えりか)

オリンピックでの日本チームの活躍でずいぶん知名度が上がってきていますが、まだまだマイナーな冬のスポーツ「カーリング」。そんなカーリングを題材にした小説が2冊あります。

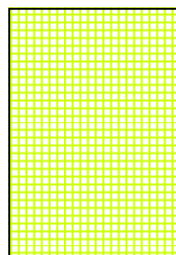
◆「青森ドロップキッカーズ」森沢 明夫/著

いじめられっ子の中学生、中途半端な不良、頂点をめざして氷上で闘う姉妹、見た目も性格も違う4人が競技を通して成長していく様子が描かれています。“氷の上でお掃除をしているようなお気楽スポーツ?”に見えるカーリングが実はとても奥深い競技だというのがわかります。



◆「シムソズ」森谷雄/著

これは2002年ソルトレークシティオリンピックのカーリング日本女子代表をモデルにしたお話です。舞台は日本でのカーリング発祥の地とも言われる北海道常呂町。やりたいことが見つからない女子高生が憧れのカーリング選手に触発され、経験もないのに友人たちとカーリングチームを結成。そして無謀にも強豪チーム打倒を誓うのですが。。。



主人公の1人“菜摘”のモデルは2年前に京極中学校に講演に来てくれたこともある小野寺歩さんだそうです。生徒の中にはどんなお話をしてくれたか覚えている人もいないのでしょうか。また、小野寺さんの書いた「カーリング魂」を読むと彼女のこの競技に対する熱い思いが伝わってきます。

湧学館 打越 靖子(うちこし・やすこ)

発行

京極町生涯学習センター湧学館
〒044-0101 京極町字京極158番地1
TEL 0136-42-2700(代表)
FAX 0136-42-2032
E-Mail yugakukan@town-kyogoku.jp



ホームページもご覧ください
<http://lib-kyogoku.cubet.com/>

